

この度はクラニシNT-303をお買い上げ下さいましてありがとうございます。
NT-303は3.5～28MHz帯ハイパワー対応のアンテナチューナーです。本機の特長
を知り、有効に利用していただくためにも本取扱説明書をよくお読みください。

【特長】

- ・高耐圧の部品を使用し、上級局のハイパワー運用に余裕で対応します。
- ・前面パネルから2系統のアンテナを切り替えて使用することができます。
- ・前面パネルからチューナーの動作をON/OFFさせることができます。
- ・進行波電力、SWRそれぞれ独立したメーターを持っていますので、常に両方を同時に観測することができます。

【定格】

SWR測定回路

周波数範囲	3.5～28MHz帯
入出力インピーダンス	50Ω系
SWR測定範囲	1 : 1 ~ 1 : ∞
SWR測定可能電力	5 W以上
測定電力レンジ	0 ~ 20W / 0 ~ 200W / 0 ~ 1 kW
最大入力	1 kWPEP
測定精度	FS. ± 10%

チューナー回路

周波数帯域	3.5～28MHz帯
出力インピーダンス	10～250Ω 不平衡

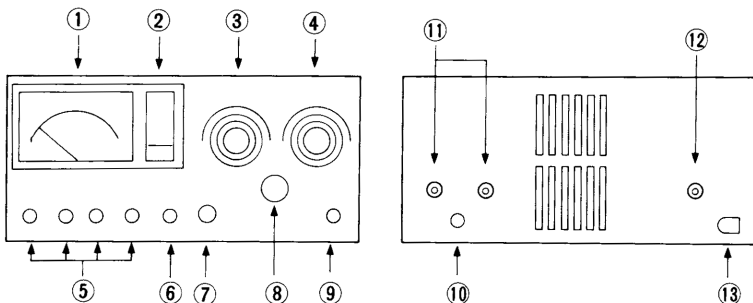
その他

入出力コネクタ	M型
外形寸法	235(W)×100(H)×250(D)mm突起物を含まず。
重量	約 3 kg

【各部の名称】

「前面」

「背面」



- ① 進行波メーター 送信出力を表示するメーターです。
② SWRメーター SWRを表示しているメーターです。

- ③ トランシーバー・マッチング チューナーの送信機側のマッチングバリコンを調整するツマミです。
④ アンテナ・マッチング チューナーのアンテナ側のマッチングバリコンを調整するツマミです。
⑤ メーターレンジ切り替えスイッチ 進行波メーターを OFF/20W/200W/1 kW レンジに選択するスイッチです。
⑥ チューナースイッチ TUNER：チューナーを接続し、SWR を最良の状態に調整します。
THRU：チューナーが切り離され、送信出力は直接アンテナへ供給されます。
⑦ キャリブレーションボリューム PULL/CALL：送信中にこのツマミを引出し、SWRメーターの針をフルスケール(CAL点)にセットします。
PUSH/SWR：CAL点にセットした後、ツマミを押し込むとSWRを表示します。
⑧ バンドスイッチ チューナーの動作バンドを切り替えます。
⑨ アンテナスイッチ 2系統のアンテナを切り替えます。
⑩ アース端子 接地用端子です。
⑪ アンテナコネクタ 2系統のアンテナを接続することができます。
⑫ 入力コネクタ 送信機またはリニアアンプのアンテナ端子に接続します。
⑬ 電源コネクタ DC13.8V ± 10% の外部電源（メーター照明用）を接続します。（センタープラス）

【運用】

チューナーで調整する際には、必要最小限のパワーでSWRを1.5以下に下げたからパワーを上げてゆくようにしてください。調整ができていないままでリニアアンプ等を動作させると、本機のチューナー部やメーター部ばかりでなく、送信機やリニアアンプの終段部まで焼損してしまう恐れがあります。

- 1：⑥のチューナースイッチをTUNER側にします。
- 2：⑦のキャリブレーションボリュームは反時計方向に絞りきっておきます。
- 3：⑧のバンドスイッチを使用するバンドにセットします。
- 4：⑨のアンテナスイッチを使用するアンテナ側にセットします。
- 5：③と④のバリコンのツマミを5.5の位置にしておきます。
- 6：必要最小限のパワーで送信します。（10W程度）
- 7：⑦のボリュームを右に回し、②のメーターをスケールの半分程度まで振らせませす。
- 8：③と④のツマミで②のSWRメーターの振れが最小になるようにします。
- 9：送信パワーを少しずつ増やしながら、7、8の操作を繰り返します。